

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)	◎	商店街（代表者）	・8月は夏祭りの開催に伴い、多くの来街者でにぎわう。地域経済への大きな波及効果が期待される。
	◎	コンビニ（経営者）	・2～3か月後、前年と同様に暑くなれば売上は上がるため、期待している。
	◎	都市型ホテル（支配人）	・夏休み、お盆休み等の先行予約が好調である。
	○	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・夏祭りが盛んな時期のため、多くの人々が当地を訪れることが予想され、売上も伸びるとみている。
	○	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・夏は例年良くなる。買い控えはみられるものの、物価上昇に伴い売上は多少増加する。前年実績は上回るとみている。
	○	一般小売店〔茶〕（経営者）	・3か月後には、中東情勢が今よりも改善するとみている。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・お中元シーズンに入るため、多少なりとも景気は良くなる。しかし、物価高が続けば、消費マインドの更なる低下も予想される。
	○	百貨店（経営者）	・来客数は前年を大きく上回っており、営業施策も準備ができている。
	○	スーパー（店長）	・酒などのし好品は前年比90%を割っているが、生鮮商品の売上は良い。6月後半になり、売上が少し上向いている。
	○	スーパー（店長）	・自治体発行の商品券の配付が始まっている。配付率の上昇に伴い可処分所得が増加するとみている。
	○	コンビニ（エリア担当）	・例年より暑くなる見通しから、冷たい商材の需要増加で売上は確保できるとみている。
	○	家電量販店（従業員）	・例年どおり8月に梅雨が明け、気温の高い日が続けば、エアコンを始めとする夏物商材が全体の販売量をけん引する。更に暑くなれば、販売量だけでなく売上単価の上昇も見込める。ただし、短期間で販売量が伸びた場合、工事業者による取付けまでに時間を要し、キャンセルが発生するおそれがある。また、部材供給の遅れにより部材不足が生じる可能性もある。
	○	乗用車販売店（従業員）	・軽自動車の一部車種が販売再開になるため、販売量が多少伸びるとみている。
	○	乗用車販売店（従業員）	・各業種が様々な施策を講じるとみており、景気は現状のまま変わらないとは考えにくい。
	○	乗用車販売店（従業員）	・一部車両が海外生産になり、国内生産の空いた枠で他車種を製造するようである。配車量が増加することを期待する。
	○	乗用車販売店（従業員）	・新型車が発売されるため、来客数や販売数の増加が見込める。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・夏祭りもあり、国内客もインバウンドも動くと思われている。
	○	通信会社（経営者）	・サービスエリア拡大のための設備投資は秋まで続くため、新規加入者数の増加が期待できる。特に今後は大学エリアへの拡張が始まるため、学生向けを中心に格安Wi-Fiサービスなども展開していく。また、格安携帯サービスをセットにした通信サービスパックについても、契約者数の増加が見込める。さらに、高齢者向けの放送サービスでは、多チャンネルサービスの事前申込みが増加しており、純増が見込まれる。
	○	テーマパーク（職員）	・屋内施設のため天候に左右されない。夏休みを迎え、子供や孫を連れたファミリー層が多くなる。
	○	観光名所（職員）	・旅行者は燃料費の高騰は気にしていない。団体予約数は例年並みである。
○	競艇場（職員）	・7月に大規模なイベントが控えている。客単価の上昇は期待できないが、来客数が増えることで、売上増加につながるとみている。	
○	美容室（経営者）	・ボーナスの時期であることに加え、最近の客の傾向として、ドライヤー等の高額商品の購入がみられるため、売上の増加に期待している。	
□	商店街（代表者）	・6月は今まで経験したことがないくらい消費が低迷しており、この先も変わらない見通しである。	

<input type="checkbox"/>	一般小売店 [医薬品] (経営者)	・ナフサの影響がいわれていたときの社会全体を覆う不安感は払拭された。株価が上がっており、米価も落ち着けば社会全体が明るさを取り戻す。景気は横ばいを維持するとみている。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (企画担当)	・一部のラグジュアリーブランド等の価格改定に伴う駆け込み需要はあるものの、来客数は減少傾向が続いている。客単価の向上に向けた施策に取り組んでいく。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (経営者)	・夏のセール、ギフトはアパレル商品の減少や高齢化による儀礼ギフトニーズの減少などにより、販売量、売上共に減少するとみている。その減少をジュエリーや時計など高額商品の好調領域がカバーする構図は変わらない。
<input type="checkbox"/>	百貨店 (従業員)	・中東情勢の影響による資材価格の高騰や物価高などは、早急に改善されるとは考えにくい。生活防衛の観点から、購買行動は引き続き慎重であるとみる。
<input type="checkbox"/>	スーパー (経営者)	・中東情勢の不安定さなどから、石油由来商品の単価上昇と品不足は続くともられる。国内メーカーにおける原価上昇や物流コスト増加、賃上げによる人件費増加に加え、輸入原価の上昇や為替相場の影響も懸念される。さらに、最近では地震や気候変動の影響も気掛かりである。株高が続いていることに加え、ボーナス時期にも入るため、消費行動の改善に期待したいが、今しばらくは消費者心理の改善は進まず、買い控えも続くとみている。
<input type="checkbox"/>	スーパー (店長)	・売上は何とか前年をキープできている状態であり、消費者の経済状況や物価高などを踏まえると、景気は変わらないとみている。
<input type="checkbox"/>	スーパー (店長)	・値上げが続くなか、購買行動は変わらないとみている。
<input type="checkbox"/>	スーパー (店舗運営)	・食費の節約は続くとみている。
<input type="checkbox"/>	スーパー (業務担当)	・株価が上昇しているといわれても実感はない。先行きは不透明である。
<input type="checkbox"/>	スーパー (商品担当)	・中東情勢への不安と物価上昇が続くなか、消費の低迷も継続するとみている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ (経営者)	・売上は週末の天候に左右されるが、今のところは現状維持とみている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ (経営者)	・経費の上昇が続く限り、経営が良くなることはない。競合の閉店や外部環境に大きな変化がない限り、厳しい状況は変わらない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ (エリア担当)	・季節トレンドは上昇するが、環境の変化は見込めない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ (エリア担当)	・商品の大幅値上げの影響が出るとみており、更なる売上増加は見込めない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ (店長)	・景気は緩やかに悪化している。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店 (経営者)	・店舗でのお中元販売の対策でカタログを作成したので、ダイレクトメールや訪問等で配布し、売上につなげたい。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店 (経営者)	・まだ秋冬の高単価商材が売れない時期のため厳しくなる。輸入商品を多く扱っているため、円安の影響もあり商品単価が高くなっている。物価高で節約ムードのなか、良くなる材料が見つからない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店 (経営者)	・物価高による節約志向は続くとみている。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店 (店長)	・物価上昇が続くなか、消費者物価指数と連動した賃金上昇にならない限り、お買い得商品中心の需要は変わらない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店 (総務担当)	・節約志向が高まっている。商品購入の優先度から見て、趣味し好に関する商品は買い控えの対象になっている。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店 (従業員)	・今月の販売量はここ2~3か月で1番良かったが、来客数は増えていない。この先も景気が良くなるとはいえない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店 (従業員)	・来客数の減少は、メンテナンスパック利用客の減少が影響している。主な要因は、部品原価や作業工賃単価の上昇である。さらに、安全走行に支障が少ない低走行車が増加していることもあり、景気の上向きは期待できない。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店 (経営者)	・受注生産をしているが、追加の受注確保はなかなか難しいため、現状の受注量に変化はないとみている。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 [靴] (経営者)	・現時点では良くなる要因が見当たらない。

□	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・中東情勢が落ち着き、コストの低下により販売価格は下がるとみているが、需要回復までには至らない。
□	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・閑散期に入っていることを除いても、配達灯油の販売数量が例年にならぬほど落ち込んでいる。本格的に夏を迎えれば、しばらく低迷するとみている。
□	一般レストラン（経営者）	・客は事前に予定を立てるのではなく、当日になって外食を決めて来店するようになっている。そのため、店が混み合う日もあるが、それは直前にならないと分からない。今後も同様の状況が続くとみている。
□	一般レストラン（経営者）	・歓送迎会などのイベントも終わっており、静かな時期になる。
□	観光型ホテル（スタッフ）	・円安、物価高の影響が収まらないとみている。
□	観光型ホテル（スタッフ）	・様々なことが解決したとしても、景気がすぐに好転することはない。
□	観光型旅館（経営者）	・景気悪化の要因が多く、消費行動が安定するには時間が掛かる。
□	観光型旅館（スタッフ）	・紅葉シーズンだが、稼働率は今月と変わらないと予想しており、来客数もさほど変わらないとみている。
□	旅行代理店（従業員）	・中東情勢の収束、円安改善の見通しが立たない。
□	旅行代理店（従業員）	・先行きは不透明である。
□	旅行代理店（従業員）	・自治体が発行している宿泊クーポンが好調である。第2弾クーポンの配布も決まっている。
□	通信会社（営業担当）	・好転する材料が乏しい。
□	通信会社（営業担当）	・円安や金利上昇の影響が出てくる可能性もあるが、全体的に変わらない状況が続くとみている。
□	通信会社（営業担当）	・6月になって良くなった客単価は、このまま維持するとみている。
□	通信会社（営業担当）	・受注量は例年と変わらない見込みである。
□	遊園地（経営者）	・中東情勢や物価上昇の動向により、先行きは不透明である。
□	美容室（経営者）	・物価高の影響により、パーマやカラーの施術数は横ばいの状況が続くとみている。
□	美容室（経営者）	・新規客に若い世代がみられない。
□	設計事務所（経営者）	・受注や契約が予定どおり進んでおり、大きな変化はない。
□	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・中東情勢の影響による原材料、資材の価格高騰及び供給調整は続く。また、2027年からの新たな省エネ基準導入を前に、エアコン交換も続くとみている。
▲	商店街（代表者）	・値上がりは、景気の回復にはつながっていない。
▲	商店街（代表者）	・物価高や人件費高騰により、商店街の店舗でも閉店や廃業が増えるという見込みがある。
▲	商店街（代表者）	・中東情勢の影響などで価格転嫁が進み、消費行動は慎重になるとみている。
▲	一般小売店〔スポーツ用品〕（店員）	・夏本番の時期は動きが鈍くなる。さらに、中東情勢の影響をどの程度受けるかについて懸念がある。
▲	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	・中東情勢の混乱の余波が、遅れて出てくると予想している。
▲	スーパー（店長）	・客は自己防衛のため、価格の安い店舗を買い回っている。店舗は客の獲得と売上確保のため、価格競争にかじを切らざるを得なくなっている。そのような状況のなかで、景気を押し上げる材料は今のところない。
▲	スーパー（販促担当）	・中東情勢次第である。ナフサ不足が解消しない限り、物価高は続き、商品価格の上昇も避けられない。ナフサ由来の包装資材や食料品について、仕入先からの値上げ要請が続けば、価格転嫁せざるを得なくなる。そうなると、販売価格は上昇し、買上点数は減少する。
▲	コンビニ（経営者）	・商品の値上げにより客単価は上昇しているものの、販売点数は横ばいが続いている。来客数は3月を境に微減が続いている。一定の来客数は確保できているが、近隣の工事の影響もあり、週末や深夜の客層を取り込みきれていない状況である。
▲	コンビニ（経営者）	・来客数の減少が著しく、かなり厳しい。

▲	コンビニ（経営者）	・プレミアム付商品券は一時的な施策である。また、来客数の微減が継続していることに加え、更なる物価上昇も見込まれることから、販売量は前年を下回る見通しである。
▲	衣料品専門店（店長）	・我が国の株価は上昇しているが、中小企業の給料には反映されていない。物価高騰の影響が大きく、買物に対してはますます消極的になっている。
▲	家電量販店（従業員）	・消費意欲は改善していないため、現在のエアコンやテレビの好調は需要の先食いによるものとみている。
▲	乗用車販売店（店長）	・あらゆる物価が上昇しているため、顧客からも買い控えの声を多く聞く。積極的な購買行動ではなく、経年等でのやむを得ない買換えが目立つ。
▲	住関連専門店（インテリアコーディネーター）	・物価上昇が続いているため、景気は良くならない。
▲	その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	・例年であれば10月の衣替えに合わせて冬物が動き出すが、暑さが長引けば厳しくなる。売れるものがなくなれば、売上は減少する。
▲	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・中東情勢の先行きは不透明であり、夏場のエネルギーコストは更に上昇するとみている。
▲	高級レストラン（支配人）	・物価高の影響により、全体的に外食の機会が減少している。特に高級レストランでの食事は敬遠される傾向が高まっており、多くの集客を見込むことが難しい状況である。このような背景から、今後も減少傾向が続くとみている。
▲	一般レストラン（スタッフ）	・景気は下降基調にあり、改善する要因が見当たらない。
▲	通信会社（営業担当）	・物価上昇が更に進む可能性が高い。
▲	観光名所（職員）	・振り客数と予約数が減少しており、全体的な下降につながっている。
▲	ゴルフ場（支配人）	・景気の先行きが不透明で、地方は特に所得の向上よりも物価高への不安感や実際の支出が増加している。先の予約状況を見ても、趣味への支出は減少傾向にある。
▲	その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・品不足、価格高騰、人件費高に加え利上げでは、身動きができない。利上げが円安対策だとしても、国に競争力がない現状では効果はなく、中小企業の経営を強く圧迫している。
▲	その他サービス〔寮管理〕（管理人）	・中東情勢の影響により石油由来製品の供給が不安定で、先行きも不透明なことから、景気はやや悪くなる。
▲	住宅販売会社（従業員）	・物価高騰により、商談数は確実に減っている。
×	一般小売店〔寝具〕（経営者）	・原料価格の上昇により商品が値上がりするため、消費者の買い控えが予想される。
×	スーパー（経営者）	・中東情勢の影響は今後も続くと思われる。電気やガス、食品、各種サービスの価格上昇も引き続き見込まれる。
×	コンビニ（経営者）	・6月末に近隣で営業時間の長い総合ディスカウントストアが開店した。
×	衣料品専門店（店員）	・今月はスーツを目的とした客が減少している。ライバル会社への流出も考えられるが、軽装化の浸透も要因となっている。また、暑くならないため需要が喚起されていない可能性もあり、大きな需要の動きがみられない状況を危惧している。
×	その他専門店〔酒〕（経営者）	・中東情勢が落ち着いたとしても、全体的に物価高の傾向は変わらない。また、在庫が積み上がった米の問題が解消せずに新米が出てきた場合、当地の主産業である農業を直撃する可能性が高い。
×	その他専門店〔食品〕（経営者）	・度重なる値上がりにより、買い控えに拍車がかかるとみている。
×	一般レストラン（経営者）	・客からも景気が悪いという話を多く聞く。他を見ても良い話は全くない状況のため、景気が良くなることは考えにくい。
×	一般レストラン（経営者）	・中東情勢は落ち着きつつあるものの、依然として不透明感がある。株価の変動も激しく、法人の動きは抑制されている。これにより、繁華街には足が向かなくなっていることも、飲食店が低迷している原因とみる。また、生活費の上昇が続いており、消費者の負担感が増している。

	×	観光名所（職員）	・お金を使うところと節約するところをしっかりと考えて計画的に使っている印象を受ける。土産の購入額の動きも悪い。
企業 動向 関連 (東北)	◎	農林水産業（従業者）	・桃が本番の時期を迎える。出来が良いため、売行きも期待できる。
	◎	建設業（従業員）	・小規模なものも含め、民間案件の受注契約が見込まれる。
	○	金属製品製造業（経営者）	・中東情勢は予断を許さない状況が続いているものの、受注予測としては上向いてきている。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・原油関連の供給不足などに不安はあるものの、引き合いは増えており、今後期待ができる。
	○	輸送用機械器具製造業（経営者）	・この先も受注の積上げは良好である。特に半導体関連の動向が良く、今後も続く見込みである。
	○	広告代理店（経営者）	・人手不足感が継続していることから、企業認知向上のための広告ニーズは引き続き高いとみている。
	○	経営コンサルタント	・中東情勢が落ち着き、原油関連の見通しの好転が期待される。
	○	その他非製造業〔飲食品卸売業〕（経営者）	・景気はやや良くなる止まりである。
	○	その他企業〔協同組合〕（職員）	・中東の海峡封鎖の緩和により、原油の調達環境の改善が見込まれることから、先行きの不透明感は解消に向かうとの期待がある。また、半導体やAI関連分野の好調は、他の業界にも明るさをもたらす。
	□	食料品製造業（営業担当）	・原材料の値上げ要請が頻発しており、利益を圧迫している。2～3か月後は価格上昇の影響が顕在化することから、やや悪くなるとみている。
	□	木材木製品製造業（従業員）	・値上げを受け入れてもらえることが多くなっている。このまま価格転嫁が進めば利益率の改善が見込めるが、もう少し時間が掛かるとみている。
	□	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・中東情勢が沈静化し、ガソリンを始めとする物価が安定しない限り、変わらない。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・引き合いは増えているが、多くの部材が想定以上に値上がりしており、実行するかは不透明である。
	□	電気機械器具製造業（総務担当）	・社会情勢は流動的であり、大きな転換点はもう少し先とみている。
	□	電気機械器具製造業（総務担当）	・受注増加につながる要因がない。
	□	建設業（従業員）	・中東情勢の影響により、資材価格や工事見積りに影響が出ている。
	□	建設業（従業員）	・人手不足により受注量を増やすことができないため、景気は変わらない。
	□	建設業（従業員）	・景気の良い状況が数年間続く見通しである。
	□	輸送業（経営者）	・中東情勢がサプライチェーンに及ぼした影響の回復には、一定の期間を要するとみている。また、当社においては、取引の多い工場が今月末を持って大幅に縮小することが決定している。今後は、海運、倉庫を始め各事業の収入に影響が出てくる見通しである。
	□	通信業（営業担当）	・顧客からの価格低減要請は続いているが、今後も価格の適正さを伝えていくしかない。
□	通信業（営業担当）	・新機種の発売により一定の受注は見込めるものの、物価高の影響により例年を下回る見込みである。	
□	金融業（広報担当）	・取引先の状況をみると、中東情勢は予断を許さないものの、一時期と比べて先行きの不透明感は弱まっている。また、政策金利の引上げについては多くの企業で織り込み済みであり、経営者のマインドも悪化傾向から改善しつつある。今後2～3か月では景気を悪くするような材料は特に見当たらず、現状維持とみている。	
□	広告業協会（役員）	・物価高騰に賃上げが追い付いていないため、消費マインドの更なる低下が懸念される。販売促進費を増加する企業は少なく、広告業界の業績は低迷状態が続くとみている。	
□	公認会計士	・顧客のうち一部の建設会社等で業績の回復がみられるようになってきた。しかし、まだ赤字の顧客が多く、製造業、建設業では景気が上向く兆候はみられない。小売業、サービス業などは堅調に業績が推移している。全体としては、景気はやや悪い。	

	□	その他企業 [企画業] (経営者)	・スーパーでは、肉類を中心に、値下げをしても売れ残っている商品が目につく。	
	▲	農林水産業 (従業者)	・米の市場価格が下がっており、稲刈りを迎える頃には、新米価格が前年と比べて大幅に下落する見通しである。	
	▲	食料品製造業 (経営者)	・仕入コストの増加が多く品の目で見られ、原価上昇により厳しい状況にある。	
	▲	食料品製造業 (製造担当)	・仕入価格の上昇により収益性が低下していることから、価格改定や内容量、資材の見直しなどに関する対策の協議を重ねている。	
	▲	出版・印刷・同関連産業 (経営者)	・地方では、急激な過疎化の進展や働き手の若者不足に伴う進出企業の撤退や閉鎖がある。地方都市と首都圏の格差拡大はますます進み、日本経済は停滞するとみている。	
	▲	広告代理店 (従業員)	・原材料価格の高騰に伴い、7月頃から資材価格の上昇が見込まれることから、顧客の発注数は鈍化するとみている。	
	▲	司法書士	・一部で住宅着工戸数の減少が著しい。	
	×	窯業・土石製品製造業 (職員)	・官需、民需共に受注が減少しており、厳しい状況が続く。	
	×	不動産業 (従業員)	・住宅ローンは金利上昇、事業ローンは審査の厳格化により、新規の取組は減少し、限定的となっている。	
雇用 関連 (東北)	◎	—	—	
	○	人材派遣会社 (経営者)	・中東情勢が一段落し、資材流通の懸念がなくなっていることから、景気は良くなるとみている。ただし、価格が高止まりしているため、手放しで喜べる状態ではない。	
	○	人材派遣会社 (社員)	・求職者数に一定の下げ止まり感があり、登録予約数も前年比プラスの傾向が続いているため、一時的に好転するとみている。	
	○	職業安定所 (職員)	・中東情勢に関する合意により、資材不足の解消や物価高騰の抑制が進めば、景気は徐々に良くなる。	
	□	人材派遣会社 (社員)	・採用者数は低調だが、求人数は堅調であり、景気は極端に悪いわけではない。	
	□	人材派遣会社 (社員)	・中東情勢はいまだ不透明な状況にある。AI関連で株式市場は活況だが、インフレ懸念や実質賃金の課題などがあり、景気が大きく上向きシナリオはみえない。	
	□	新聞社 [求人広告] (担当者)	・インフレ圧力の緩和や政策的な支援継続などにより回復基調が続けば、良くなる可能性は若干ある。観光シーズンの到来や農林水産業の生産増加も追い風になるとみている。	
	□	職業安定所 (職員)	・物価高などを背景に65歳以上の高齢求職者が多くなっているが、マッチングが進まず求職活動が長期化しており、有効求職者数は13か月連続で増加している。小規模事業所の閉鎖も散見され、求人倍率の低下傾向は続くと思われる。	
	□	職業安定所 (職員)	・5月の新規求職者数は前月に引き続き前年比では減少に転じている。新規求人数は前年比では3.5%増加している。主要産業のうち、製造業、卸売小売業、医療福祉、サービス業の4つで増加となっている。中東情勢の先行きには不透明感があるものの、求人の動きには底堅さがみられる。	
	□	職業安定所 (職員)	・中東情勢の影響により、原材料の不足や物価高などの影響がみられ、先行き不透明である。ただし、直近での景気動向は余り変化がないとみている。	
	□	その他雇用の動向を把握できる者	・物価高が続く限り状況は変わらない。	
	▲	アウトソーシング企業 (経営者)	・市場価格の上昇スピードが速いため、景気は冷え込む。	
	▲	求人情報誌製作会社 (経営者)	・世界情勢の変化や円安の影響が長期化しており、景気の下押し要因は多くある。一方、改善につながる材料は見当たらない。	
	▲	新聞社 [求人広告] (担当者)	・物価上昇の先行きが見通せない。景気が良いのは大手企業だけであり、中小企業との業績格差が広がっている。	
	▲	学校 [専門学校]	・中東情勢の影響により、経済活動の先行きは不透明である。	
		×	*	*